

【今日の説教から】

クリスマスおめでとうございます。

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。」

「神には、なんでもできないことはありません」。

「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」

「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」

「力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。そのみ名はきよく、そのあわれみは、代々限りなく主をかしこみ恐れる者に及びます。」

「ほむべきかな。神はその民を顧みてこれをあがない、わたしたちのために救の角を僕ダビデの家にお立てになった。

…わたしたちを敵から、またすべてわたしたちを憎む者の手から、救い出すため」

「わたしたちを敵の手から救い出し、生きている限り、きよく正しく、みまえに恐れなく仕えさせてくださる…これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、

暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導く」

「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。」

クリスマスのメッセージはすべて実現しました。御言葉は私たちの人生にも実現します。

皆様、クリスマスおめでとうございます。

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。」

「神には、なんでもできないことはありません」。

「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」

「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」

「力あるかたが、わたしに大きな事をしてくださったからです。そのみ名はきよく、そのあわれみは、代々限りなく主をかしこみ恐れる者に及びます。」

「ほむべきかな。神はその民を顧みてこれをあがない、わたしたちのために救の角を僕ダビデの家にお立てになった。

…わたしたちを敵から、またすべてわたしたちを憎む者の手から、救い出すため」

「わたしたちを敵の手から救い出し、生きている限り、きよく正しく、みまえに恐れなく仕えさせてくださる…これはわたしたちの神のあわれみ深いみこころによる。また、そのあわれみによって、日の光が上からわたしたちに臨み、

暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導く」

「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。」

これらのクリスマスの神様からのメッセージに感謝いたします。

私たちは容易に恐れます。打ち震え、不安になり、途方に暮れ、肩を落とし、不安になり、焦燥感に駆られ、疲労困憊します。

「どうしてそんな事が、わたしにわかるのでしょうか。わたしは老人ですし、妻も年をとっています」 これこれです、あれこれですと、理屈を並べて心配します。

ルカ 14:16 そこでイエスが言われた、「ある人が盛大な晩餐会を催して、大ぜいの人を招いた。

14:17 晩餐の時刻になったので、招いておいた人たちのもとに僕を送って、『さあ、おいでください。もう準備ができましたから』と言わせた。

14:18 ところが、みんな一様に断りはじめた。最初の方は、『わたしは土地を買いましたので、行って見なければなりません。どうぞ、おゆるしください』と言った。

14:19 ほかの方は、『わたしは五対の牛を買いましたので、それをしらべに行くところです。どうぞ、おゆるしください』、

14:20 もうひとりの方は、『わたしは妻をめとりましたので、参ることができません』と言った。

しかし主は大能の方、主は力強い方、主には何一つ不可能なことはありません。この主を待ち望む者もまた、力強く鷲の翼を張って人生の苦難の坂道を上ることが出来ます。

イザヤ 40:28 あなたは知らなかったか、あなたは聞かなかったか。主はとこしえの神、地の果の創造者であって、弱ることなく、また疲れることなく、その知恵ははかりがたい。

40:29 弱った者には力を与え、勢いのない者には強さを増し加えられる。

40:30 年若い者も弱り、かつ疲れ、壮年の者も疲れはてて倒れる。

40:31 しかし主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく、歩いても弱ることはない。

「どうして、そんな事があり得ましようか。わたしにはまだ夫がありませんのに」

夫がないのに、もちろん言うまでもなく、夫以外の男性とも関係がないのに子が生まれるとは、考えられないのです。無茶な成り行きなのです。夫も妻も老年であるということ、これも大きな難関かもしれませんが、相手がないのに生まれるということはずっともつと難関です。考えもつかない、むちゃな、実現不可能なことをも可能にするということは理解に苦しみますが、神様は私たちが諦めてしまうようなことでもあきらめる必要のないお方

だと考えれば、何という心強いお方なのかという風に思えてくるのです。

クリスマスのメッセージ、それは、神様には不可能はない。そして神様には、私たちのために良いご計画があるということなのです。恐れる必要はない。自分の考えに沈むこともない。神様の良き計画を信じて委ねなさい。信じるということ、委ねるということ学びなさいということがメッセージなのだと思います。

8 さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。

まさに4節にあります、「ヨセフもダビデの家系であり、またその血統であったので、ガリラヤの町ナザレを出て、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。」というまさしくその地方にいた羊飼いたちにスポットライトが当てられます。羊飼いたち。後にイエス様は「わたしはよい羊飼いである」と言われるわけですが、羊飼いたちへの世間の目は冷たいものでした。野宿しながら羊の命を守る彼らでしたが、あのパリサイ人たちが主の弟子に言ったような、食事の時に手を洗うこともままならず、安息日を守ることもままならなかったからです。

ヨハネ 10:11 わたしはよい羊飼である。よい羊飼は、羊のために命を捨てる。

10:12 羊飼ではなく、羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが来るのを見ると、羊をすてて逃げ去る。そして、おおかみは羊を奪い、また追い散らす。

10:13 彼は雇人であって、羊のことを心にかけていないからである。

10:14 わたしはよい羊飼であって、わたしの羊を知り、わたしの羊はまた、わたしを知っている。

10:15 それはちょうど、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。そして、わたしは羊のために命を捨てるのである。

マタイ

15:1 ときに、パリサイ人と律法学者たちとが、エルサレムからイエスのもとにきて言った、

15:2 「あなたの弟子たちは、なぜ昔の人々の言伝えを破るのですか。彼らは食事の時に手を洗っていません」。

15:3 イエスは答えて言われた、「なぜ、あなたがたも自分たちの言伝えによって、神のいましめを破っているのか。

15:4 神は言われた、『父と母とを敬え』、また『父または母をののしる者は、必ず死に定め

られる』と。

15:5 それなのに、あなたがたは『だれでも父または母にむかって、あなたにさしあげるはずのこのものは供え物です、たとえば、

15:6 父または母を敬わなくてもよろしい』と言っている。こうしてあなたがたは自分たちの言伝えによって、神の言を無にしている。

15:7 偽善者たちよ、イザヤがあなたがたについて、こういう適切な預言をしている、

15:8 『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。

15:9 人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる』。

15:10 それからイエスは群衆を呼び寄せて言われた、「聞いて悟るがよい。

15:11 口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである」。

「口にはいるものは人を汚すことはない。かえって、口から出るものが人を汚すのである」。私たちは、神様の定めを完全に守って、自分の力で義とされることは出来ません。私たちは

ヨハネ 8:10 そこでイエスは身を起して女に言われた、「女よ、みんなはどこにいるか。あなたを罰する者はなかったのか」。

8:11 女は言った、「主よ、だれもございませぬ」。イエスは言われた、「わたしもあなたを罰しない。お帰りなさい。今後はもう罪を犯さないように」。

8:12 イエスは、また人々に語ってこう言われた、「わたしは世の光である。わたしに従って来る者は、やみのうちを歩くことがなく、命の光をもつであろう」。

ルカ 7:45 あなたはわたしに接吻をしてくれなかったが、彼女はわたしが家にはいった時から、わたしの足に接吻をしてやまなかった。

7:46 あなたはわたしの頭に油を塗ってくれなかったが、彼女はわたしの足に香油を塗ってくれた。

7:47 それであなたに言うが、この女は多く愛したから、その多くの罪はゆるされているのである。少しだけゆるされた者は、少しだけしか愛さない」。

7:48 そして女に、「あなたの罪はゆるされた」と言われた。

7:49 すると同席の者たちが心の中で言いはじめた、「罪をゆるすことさえするこの人は、いったい、何者だろう」。

7:50 しかし、イエスは女にむかって言われた、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。

詩篇 51:16 あなたはいけにえを好まれません。たといわたしが燔祭をささげても／あなたは喜ばれないでしょう。

51:17 神の受けられるいけにえは砕けた魂です。神よ、あなたは砕けた悔いた心を／かろしめられません。

ヤコブ 2:12 だから、自由の律法によってさばかるべき者らしく語り、かつ行いなさい。

2:13 あわれみを行わなかった者に対しては、仮借のないさばきが下される。あわれみは、さばきにうち勝つ。

ルカ 14:12 また、イエスは自分を招いた人に言われた、「午餐または晩餐の席を設ける場合には、友人、兄弟、親族、金持の隣り人などは呼ばぬがよい。恐らく彼らもあなたを招きかえし、それであなたは返礼を受けることになるから。

14:13 むしろ、宴会を催す場合には、貧しい人、体の不自由な人、足の悪い人、目の見えない人などを招くがよい。

14:14 そうすれば、彼らは返礼ができないから、あなたはさいわいになるであろう。正しい人々の復活の際には、あなたは報いられるであろう」。

マタイ 9:11 パリサイ人たちはこれを見て、弟子たちに言った、「なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人などと食事を共にするのか」。

9:12 イエスはこれを聞いて言われた、「丈夫な人には医者はいらない。いるのは病人である。

9:13 『わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない』とはどういう意味か、学んでください。わたしがきたのは、義人を招くためではなく、罪人を招くためである」。

9:35 イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをおいやしになった。

9:36 また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。

9:37 そして弟子たちに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。

9:38 だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」。

私たちは弱く、乏しく、病の内にあり、自力救済、自力更生が不可能な者です。何ら神様にお返しのできないものです。しかし、「わたしが好むのは、あわれみであって、いけにえではない」とありますように、神様は砕かれた心のいけにえを喜ばれるのです。そのために羊

飼いたちが選ばれました。

1 コリント 1:18 十字架の言は、滅び行く者には愚かであるが、救にあずかるわたしたちには、神の力である。

1:19 すなわち、聖書に、／「わたしは知者の知恵を滅ぼし、／賢い者の賢さをむなしのものにする」／と書いてある。

1:20 知者はどこにいるか。学者はどこにいるか。この世の論者はどこにいるか。神はこの世の知恵を、愚かにされたではないか。

1:21 この世は、自分の知恵によって神を認めるに至らなかった。それは、神の知恵にかなっている。そこで神は、宣教の愚かさによって、信じる者を救うこととされたのである。1:27 それなのに神は、知者をはずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者をはずかしめるために、この世の弱い者を選び、

1:28 有力な者を無力な者にするために、この世で身分の低い者や軽んじられている者、すなわち、無きに等しい者を、あえて選ばれたのである。

1:29 それは、どんな人間でも、神のみまえに誇るがないためである。

9 すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。

夜中に見たこともないまばゆい光を見た彼らは、ガタガタと身震いするほどにその出来事の中であって恐れしました。

しかしそれは主の栄光であって私たちを育み慰め赦すための光であって、私たちは神様のすべてを見透かす、透徹させる光を恐れる必要はないのです。

ヨハネ 3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

3:17 神が御子を世につかわされたのは、世をさばくためではなく、御子によって、この世が救われるためである。

3:18 彼を信じる者は、さばかれぬ。信じない者は、すでにさばかれている。神のひとり子の名を信じることをしないからである。

3:19 そのさばきというのは、光がこの世にきたのに、人々はそのおこないが悪いために、光よりもやみの方を愛したことである。

3:20 悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない。

3:21 しかし、真理を行っている者は光に来る。その人のおこないの、神にあってなされたということが、明らかにされるためである。

2:10 御使は言った、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。

2:11 きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである。

恐れるな、おののくな、罪と死の定めを代わりに引き受けた、救い主が今日お生まれになったから。この方こそ主キリスト。全ての民、万民のための大きな喜び。

2:12 あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。

2:13 するとたちまち、おびたしい天の軍勢が現れ、御使と一緒に神をさんびして言った、

2:14 「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。

そのお方はへりくだられた方。私たちのために砕かれ、私たちのために懲らしめをお受けになられた方。町の外で十字架にかかってその命をおささげになられた方は、そのお生まれの時もユニークでした。このへりくだりこそがイエス様のご生涯にわたって変わらないしるしでした。そのしるしにあって、その救い主のお誕生にあって、天の天使たちが抑えきれずに賛美しました。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように」。私たちも天と共に賛美をしようではありませんか。

イザヤ

53:1 だれがわれわれの聞いたことを／信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。

53:2 彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。

53:3 彼は侮られて人に捨てられ、悲しみの人で、病を知っていた。また顔をおおって忌みきらわれる者のように、彼は侮られた。われわれも彼を尊ばなかった。

53:4 まことに彼はわれわれの病を負い、われわれの悲しみをになった。しかるに、われわれは思った、彼は打たれ、神にたたかれ、苦しめられたのだと。

53:5 しかし彼はわれわれのとがのために傷つけられ、われわれの不義のために砕かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、わ

れわれはいやされたのだ。

53:6 われわれはみな羊のように迷って、おのおの自分の道に向かって行った。主はわれわれすべての者の不義を、彼の上におかれた。

53:7 彼はしえたげられ、苦しめられたけれども、口を開かなかった。ほふり場にひかれて行く小羊のように、また毛を切る者の前に黙っている羊のように、口を開かなかった。

53:8 彼は暴虐なさばきによって取り去られた。その代の人のうち、だれが思ったであろうか、彼はわが民のとがのために打たれて、生けるものの地から断たれたのだと。

ピリピ 2:4 おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。

2:5 キリスト・イエスにあっていただいているのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。

2:6 キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、

2:7 かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

2:9 それゆえに、神は彼を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。

2:10 それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかがめ、

2:11 また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

2:15 御使たちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼たちは「さあ、ベツレヘムへ行って、主がお知らせ下さったその出来事を見てこようではないか」と、互に語り合った。

2:16 そして急いで行って、マリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を捜しあてた。

2:17 彼らに会った上で、この子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた。

2:18 人々はみな、羊飼たちが話してくれたことを聞いて、不思議に思った。

2:19 しかし、マリヤはこれらの事をことごとく心に留めて、思いめぐらしていた。

羊飼たちが最初の主の礼拝者となりました。彼らが主イエス様にお目通りの叶った最初の人たちでした。時は夜。寒く厳しく、心細い、世間の逆風の中に肩を狭くして住む人たちに光が立ち昇りました。希望の光、赦しの光、慰めの光、恵みの光でした。彼らは喜んで主イエス様を飼葉おけの中を探し、その数奇なる赤ちゃんを探すのには、その夜のうちに、



さほど手間取りませんでした。世界を創られた主のお生まれの寝床にこんなに似つかわしくない、人の子のためのこんなに大きな失礼があっているのでしょうか。いえ、神様はあえてその座を選ばれました。そして神様は今日も私たちの心に寄り添いたいと、居場所を求めておられます。この私の、怒りっぽくて失礼で、冷淡で、自分勝手に、愛のない、この心の中にイエス様は座して下さいなのです。いえそこに好んで座して下さいなのです。

ヨハネ 1:9 すべての人を照すまことの光があつて、世にきた。

1:10 彼は世にいた。そして、世は彼によってできたのであるが、世は彼を知らずにいた。

1:11 彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受け入れなかった。

1:12 しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。

黙示録 3:20 見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいって彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう。

マタイ 9:36 また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれた。

9:37 そして弟子たちに言われた、「収穫は多いが、働き人が少ない。

9:38 だから、収穫の主に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい」。

2:20 羊飼たちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

これが、私たちが御言葉に懸けて生きることが出来る証しです。

見聞きしたことは、何もかも自分たちに語られたとおりで。

「時が来れば成就するわたしの言葉」(ルカ 1:20)。

「恵まれた女よ、おめでとう、主があなたと共におられます」

「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。」

「神には、なんでもできないことはありません」

「主のお語りになったことが必ず成就すると信じた女は、なんとさいわいなことでしょう」。

クリスマス、それは実現可能で、物事を最善に完全になさる神様を心の底から信じて、信仰により一步を踏み出す時です。恐れの中にあろうとも、それが人の目では考えられないよう

な無茶なことであっても、です。

2:20 羊飼たちは、見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

何もかも自分たちに語られたとおりであったので、神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

私たちの人生もまた、このようなものです。主の御言葉のお約束のうちに、恵みのお導きのうちに、ああ、あれもこれも、主のお約束下さった祝福は確かに実現したと、賛美しながら、喜び進む人生なのです。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。クリスマス、主のご降誕、ありがとうございます。神様の御手の中にあっても私たちの中には恐れを感じる時があります。理解できないことがあります。しかしあなたは恐れるな、大きな喜びを告げると語られます。そしてその通り、あなたは私たちに大きな喜びを与えて下さいます。全てはお言葉の通りでした。御名を賛美いたします。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン